

道徳の教科化の趣旨を生かした

導入・展開・終末・発展の類に関する研究③

新宮 弘識



はじめに

道徳の授業に関する実践的研究は、道徳が教育課程に位置付けられた昭和33年から今日まで、57年間積み重ねられてきたのであるが、どのような成果を挙げることができたであろうか。

論語に「温故知新」という句があるが、過去の研究実績を明らかにすれば、新しい道徳の授業のあり方が見えてくるはずである。

道徳の副読本『ゆたかな心—新しい道徳』（光文書院）の「教師用指導書」に示されている展開例を、「どのような導入が行われているか」「どのような展開が行われているか」「どのような終末が行われているか」「どのような発展的活動が想定されているか」などの観点から分析して、その

類を明らかにしてみよう。

そうすれば、その成果や問題点が明らかになり、教科化される道徳の授業の改善に寄与できるはずである。

この研究は、1年32事例・2年34事例、低学年の合計66事例、3年35事例・4年35事例、中学年の合計70事例、5年35事例・6年35事例、高学年の合計70事例を分析して、その類を明らかにし、考察したものである。

具体的な事例は、わかりやすくするために修正加筆したものがある。また、具体的事例は、上段から低・中・高の順で記述しているが、具体例のない学年もある。

Ⅳ. 終末について(前号「Ⅱ.展開前段について」「Ⅲ.展開後段について」を受けて)

(1)終末の類と具体的な事例

終末の類	具体的な事例
a, 親や教師から話を聞いて励を受け、実践意欲を高める活動	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりについて先生の話聞きましよう ・学んだ心や気持ちは、みなさんももっています。お母さんからの手紙に書いてありますから読んでみましょう ・学校を愛した人の話を、卒業生から聞きましよう
b, 学習を通してわかったことを、自分のものとしてまとめる活動	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った言葉を板書の中から選んでノートに書きましよう ・学習したことを、お父さんやお母さんに知らせるためにノートにまとめましよう ・学習したことをもとに標語をつくりましよう ・感謝について、学習前と学習後とを比べて、その違いをまとめましよう ・相手を大切にすることについて、参考にしたいと思う言葉を黒板に書かれている言葉の中から選んでノートに書きましよう
c, 学習内容を生かした今後の自分の生活を考える活動	<ul style="list-style-type: none"> ・よふかし大まおうに負けないための作戦を立て、実行ましよう ・今日学習したことをもとにして、今後はどのような心をもって生活していこうと思うかをノートに書き、実行ましよう ・自分らしさを伸ばすための実行計画を書き、実行ましよう

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活目標を考え直ましよう ・今日学習したと同じことが書いてある本を見つけて読んだり、調べたり、家族で話し合ったり、実行したりして、その結果をノートに書きましよう
d, 学習内容を広げたり、深めたり、習熟を図ったりする活動	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある「してはいけないことの一覧表」を見て、なぜいけないかを考えましよう ・学習した友達パワーを、たくさん集めましよう ・次の三つの話には、きまりのもとになる考えがどのように生かされているかを確かめましよう
e, 学習内容に類似した自分の経験を想起させて、自覚を促す活動	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶によって心が和らいだ経験を発表し合いましよう ・人を支える陰の力を発揮した経験を発表し合いましよう ・困っている人を助けた経験を思い出して、自分たちも思いやりの心をもっていることを確かめましよう
f, その他	

(2)終末に関する考察

1. 終末の教育的意義について

平成27年度に改訂された「学習指導要領解説道徳編」では、心の教育と行動の教育とによって道徳性を育成するという道徳の授業改善の趣旨が示された。また、同書に「終末は、(中略)道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階である」と述べているが、これが終末の教育的意義である。

この調査によると、終末における活動は、教師による説話、学習内容のまとめ、学習内容を生かした今後の自分の生活の展望等がみられるが、終末の教育的意義から、これらの活動を具体的に考えてみよう。

2. 教師の説話について

調査結果の「a, 親や教師から話を聞いて励を受け、実践意欲を高める活動」がこれに相当する。『ゆたかな心』での調査結果によれば、教師の説話を設定している指導案は比較的少ないが、一般的にこの活動を行う授業が多いように思われる。

この活動は、子どもたちが、教師の小学生時代の話やゲストティーチャーの話聞いて、実践意欲を高めることを期待していると思われる。教師の幼い頃の話は、子どもたちの興味を引くだけでなく、人間的な影響を与えるという意味において、

その教育的意義は無視できない。

しかし、終末の教育的意義が、学習のまとめと今後の生活への課題を確立させることにあるとすれば、この活動だけでは不十分であると言わなければならない。

3. 学習を通して学んだことをまとめる活動について

調査結果の「b, 学習を通してわかったことを、自分のものとしてまとめる活動」がこれに相当する。この活動は調査結果でも多く活用されているし、一般的にも多いようである。

ここでは、「自分はこんなことを学んだ」という主体の実を結ばせることが中心であるが、それは、ねらいの方向を向いていることが望ましい。具体的には、ノートに「学習したことを短い言葉でまとめさせる」「板書の中から印象的な言葉を選ばせる」「自分の決意をまとめさせる」等の方法があるが、この活動をもっと強化してよいと思われる。

また、このノートを、評価の資料として活用することも考えられる。

4. 学習内容を今後の生活にどう生かすかという課題を考えさせる活動について

調査結果の「c, 学習内容を生かした今後の自分の生活を考える活動」がこれに相当する。調査では、この活動は比較的多く活用されているよう

であるが、一般的には少ないように思われる。「道徳の授業と他の教育活動とのセット化はよくない」とするタブーが、今なお存在しているのだろうか。

この活動は「終末は、道徳的価値をまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階である」とする平成27年度の学習指導要領道徳一部改正の趣旨を生かす意味で大切である。このような終末の考え方は、私が40年来主張し続けてきた「道徳の授業は道徳教育の終わりではなく、始まりである」とする道徳教育論の具体化であり、終末は、「道徳の授業における学びと、その学びを自分の生活で拡充する接点である」といえよう。また、このような終末を行うには、調査結果の「b、学習を通してわかったことを自分のものとしてまとめる活動」をしっかり行うことが重要になることはいうまでもない。

ところで、「学習を通してわかったことを自分

のものとしてまとめる活動」を受けて、「今後の自分の生活を展望する活動」を行うとすれば、終末に相当の時間が必要になる。そこで、道徳の授業を柔軟に考える必要が生まれる。例えば、導入や展開後段を思い切ってカットして、教材中心の授業を行い、「人間はすばらしいねえ」と余韻を残して終えたり、複数時間扱いの授業によって人間の生き方や自分の生き方を徹底的に考えたりする授業があってよい。食事にはフルコースがあり、軽食もある。和食もあれば洋食もある。このように、道徳の授業も柔軟に考える必要があろう。

5. その他の終末の活動について

調査結果の「d、学習内容を広げたり、深めたり、習熟を図ったりする活動」「e、学習内容に類似した自分の経験を想起させて、自覚を促す活動」についてであるが、これは、授業の内容によって必要な場合もあり、展開前段で行うことが効果的な場合もある。柔軟に考える必要があろう。

V. 発展について

(1) 発展の類と具体的な事例

発展の類	具体的な事例
a, 学習内容に類似した話を読んだり調べたりしてその結果を記録したり、紙芝居をつくったり、背面黒板に発表したりする活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「人が喜べば自分もうれしい」ことが書いてある国語の教科書や読み物を読んで紙芝居をつくり発表する ・校歌には、どのような願いや希望がこめられているかについて調べて発表する ・ボランティア活動をしている人々の行いや考えを、テレビやインターネットで調べて発表する
b, 学習内容を家族や周りの人に話して、その人達の意見を聞く活動	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばろうと思ったことを、お父さんやお母さんに話して意見を聞く ・自分がつくった標語を家の人に見てもらい、意見を聞く ・仕事のやりがいについてお父さんに聞く ・家族で環境問題を話し合う ・わが家の礼儀について家族で話し合う
c, 学習した内容を実行して、その様子や結果を日記やカードに書いたり、背面黒板に発表したりする活動	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を大切に生活をして、その結果を発表する ・整理整頓を実行し、その結果をまとめて発表する ・家で実際に働き、働くときどのような喜びがあるかを日記に書いて発表する ・自分にできる思いやりを実行して記録する ・学校の委員会活動を行って、その結果をまとめる
d, 学習した内容を実行している人や友達をさがして、記録したり発表したりする	<ul style="list-style-type: none"> ・正直な人をさがして記録し、発表する ・私たちの世話をしてくれている人々に会って、どんな気持ちで世話をしてくれているかを聞き、その結果を発表する

活動	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の助け合いを、インターネットや新聞で調べて記録する
e, 朝の会や帰りの会で、学習内容をどのように生活に生かすか話し合う活動	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで使うものの使い方を学級活動で話し合う ・学級活動で、なまけ忍者追い出し作戦を立てる ・係活動に進んで参加しているかについて、帰りの会で発表し合う ・学校のきまりを低学年に伝える委員会活動をする
f, その他	

(2) 発展に関する考察

1. 発展の具体的活動について

「学習内容に類似した話を読んだり調べたりする」「学習内容に類似したことを実行している人や友達をさがす」という調べ活動、「学習内容を家族や周りの人に話してその人たちの意見を聞く」という聞く活動、「学習した内容を生活の中で実行する」という実践的な活動等が、これに相当する。発展の具体的活動である。

さらに、これらの活動を行った後、その結果を発表したり、活動の中で生まれた問題を道徳の授業で話し合ったりするという活動も考えられるわけである。調べ活動、聞く活動、実行等のさせっ放しではなく、その結果を確認し合うという活動の設定が、この学習の特長の一つである。

2. 発展の教育的意義について

調べる活動や他者の意見を聞く活動は、道徳の授業で学習し内容が拡充（拡大という量の広がり）と充実という質の深まり）されたり、新しい疑問が生まれたりして、次の道徳の学習に発展していくという教育的効果が考えられる。また、学習内容が自分のものとして胸に落ちるといった教育的効果も考えられる。

実行するという活動は、道徳の授業でわかったことを実践するという教育的意義だけでなく、授業で学んだことが実行を通してよくわかり、体得されていくという教育的効果がある。さらに、調べる、聞く、実行するという発展的活動のさせっ放しではなく、発表や話し合いや再度の授業によって確認するという活動を設定していることは、友達の経験を改めて認識し、それが刺激となって学び合いが始まるという教育的意義がある。

また、道徳の授業での学習内容をもとに、それ

を学校生活の中でどう生かすかという活動としての学級会や朝の会、帰りの会等の発展的活動も重要である。これらの発展的活動は、「道徳の授業は、道徳教育の終わりではなく、道徳教育の始まりである」とする考えに立っており、人格の完成に向かう道徳教育の具体化であるということができよう。

この意味において、道徳の時間の終末は、道徳の授業と生活とを結ぶ、発展へ向かう重要な接点であるといつてよからう。

3. 発展のさらなる強化について

わが国の道徳教育には「道徳の授業と子どもの生活とのセット化は望ましくない」とする道徳教育のタブーがあった。一時、「道徳教育は生活の中で行うべきである」とする教育論があり、道徳の時間を何とかして確保したいとする行政的立場からこのタブーが生まれたのであろうが、それが道徳授業の硬直化、形式化を生んだように思われる。今や、行政的道徳教育論から、本来の教育的道徳教育論に立ち返らなければならない時期である。

本来の教育的道徳教育論とは、昭和33年当初からあった、道徳教育の補充・深化・統合という教育論であり、道徳教育は、道徳の時間を要として学校における他の道徳教育との関連や、家庭・地域社会における道徳教育との連携を行う必要があるとする道徳教育論である。また、道徳の教科化にあたり、「特別の教科道徳」のように「特別」という名称を付した教育的意図である。このような本来の道徳教育論の「もと」は、「内外相応じてもことは成る」とする哲理であろう。